

八工大「リケジョ」支援

特別枠や就職サポート

女子学生比率増、手応え

八戸市の八戸工業大学(船崎健一学長)で近年、工学部に在籍する女子学生の比率が増加し、大学全体の女子比率を押し上げている。6年前、女性教職員有志が理工系の進路を目指す女子中高生を支援する活動を始めて以降、入試での女子枠導入や女子学生の学生生活・就職サポートに力を入れてきた。「リケジョ」受け入れと支援の取り組みが実を結びつつあり、関係者は手応えを感じている。

(千葉真由美)

同大によると、今年5月1日時点の学生数は、工学部641人、感性デザイン学部133人の計774人。このうち女子は73人、82人の計155人で全体の2割を占める。入学者数を見ると、推薦入試に指定校制女子特別枠を新設した2025年度は女子の比率が13・2%と、前年度の8・1%から大きく増えた。中でも建築分野で女子の伸び

が目立つ。女子特別枠は成績優秀な工学部志望者が対象で、合格者に入学金25万円の全額を給付する制度。女性技術者育成を応援する県内外の約60社からの寄付金が原資だ。特別枠で入学した工学部建築・土木工学コース2年の長澤由依さん(20)は「三戸町出身は工業高校の教員を目指し、同大に進学した。『理工系に興味があれば、女子だからと諦めず挑戦してほしい』と高校生にエールを送る。

同大は20年度、鮎川恵理・工学部生命環境科学コース教授(植物生態学)ら女性教職員有志がグループ「HTRリケジョLABO」を設立して女子中高生の理系進路選択を支援する活動を開始。24年度からは学内に「STEAM(STEAM)女子推進・支援室」を開設し、職員が在学する女子学生の困りごとや要望に耳を傾ける交流会を開いている。トイレに生理用品を置く取り組みも始めた。25年度には女子学生有志チーム(通称ギャルズ)が発

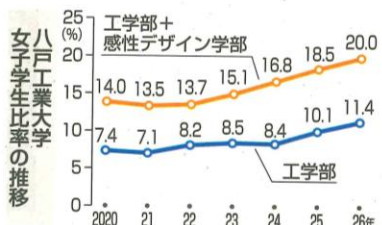
足。農園活動などを通して学年・学部を超えた交流が広がっている。工学部生命環境科学コース2年の齋藤由乃さん(20)は「青森市出身は『交流会には学長も参加して、相談

』ことや悩みを直接聞いてくれる。女子はまだ少ないけれど、学内は生活しやすい環境だと思つて語る。本年度はジェンダー研究者の海妻佳子・岩手大副学長を客員教授に招き、リケ

ジョ支援について助言を受けている。同室長を兼務する船崎学長は「今後、女性研究者や女子学生の活躍を、中学生以下の保護者らに伝えるイベントなどを企画したい」と意欲を語った。



鮎川教授(右から二目)の指導でマイクロビットの使い方を確認する八工大生命環境科学コース3年の女子学生ら



八戸工業大学 女子学生比率の推移